

柘植地域

まちづくりだより

第240号

発行

柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)

〒五一九一四〇二
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三



柘植地域俳句コーナー
切り落す
井出の大水
大早

吉岡好子

発行日

二〇一九(令和元)年八月一日(木)

時代の峠に立ち会ってしまった

我々の責務とは…?

伊賀流住民自治研修会
6月28日(金)夜、ゆめぼりすセンターで伊賀市主催の伊賀流自治研修会が開かれました。役員他13名が参加し、講師の岩崎恭典さん(四日市大学学長)に学びました。

昨年同様の話を伺いましたが、現状を理解し行動化していくために、今年は役員はもとより一人でも多くのメンバーが学習しようというねらいで参加しました。



「2025問題」と言われますが、岩崎さんは「2022問題」だと捉えておられます。地域(区やまち協)を支えてきた前期高齢者が後期高齢者になっていきますと、担い手問題はいつそう深刻になるでしょう。

**これからはとうとう世帯数が減っていく時代に…
しかし、肝心の住民の意識は、さほど変わっていない。
状況を理解・共有し、早く対策をとっていくべきです。**

県内各地から川北秀人講師の話を聴こうと、松阪市市民活動センターに大勢が集まりました。(7月20日) ↓



↑伊賀市内39の自治協代表がゆめぼりすセンターに集結。講師の示す厳しい現実を理解し各地域に持ち帰りました。(6月28日)



**人口より課題が増える時代・社会は、
「これまで通り」では歯が立たない。
「気付かないふり」が、判断と行動をさらに遅らせる。
頭も、心も、柔らかく!**

私たちの住む各区や柘植地域はどうでしょう。課題の先送り・先延ばしになってはいないでしょうか?

3つのチャレンジ(〜てみる)
かんぱうろう
かんぱうろう
かんぱうろう
決めてみる
やってみる
やりなおしてみる

配布資料より
課題の先延ばしにストップを!
行事を半減して、事業Ⅱ福祉・防災+経済を
みえのみらいづくり塾を傍聴
7月20日(土)午後、松阪市市民センターで三重県主催のみえのみらいづくり塾が開かれました。
誰かがなんとかしてくれるだろうという意識から脱却し、小さなエリア(区)でやること、やや広いエリア(柘植地域)でやること、行政がすることを早く判断していくことが必要。また人と人の関係を豊かにしていく「人『交』密度」を高めていくことが必要。講師の川北さんはそう指摘されます。また川北さんは課題を解決していけない多くの地域の現状を、「**担う力はあるが、決める力がない**」と分析しています。

違う視点を入れることで、自分たちのまちづくりを見直す

6月29日(土)午前、今年度初めての視察
回入をしました。



島ヶ原地域まちづくり協議会を訪問しました。駅を有し、森林が多く、保小中が地域内にあり、移住者も多
いなど、当柘植地
域と似た点の多い
自治協議会です。

同じ三重県内の
鈴鹿市久間田地域
づくり協議会の一
行がお越しになり、
まちづくり協議会
発足当時のことや
特に自主防災活動
について情報交換
・意見交換を行
いました。

また、7月6日
(土)午前には、
運営委員10名で、



旧柘植保育園跡地利活用関係者会議

7月9日(火)午後、市民センターで、伊賀市(中央3人)
・柘植地域まちづくり協議会(右)・NPO都美恵ステー
ション・NPO杜のカフェいこいこ(左2人)の4者が集まり、旧
柘植保育園跡地の契約(貸与・使用許可)ならびに現在の活動
・使用の状況と今後のあり方について話し合いました。



この会議は
毎年7月に
開催される
ことになっ
ています。

本部役員の選
出にもたいへん
ご苦労されてお
り、今回初めて
選挙により会長
が選出されたこ
とで、柘植地
域にとっても
他人事ではなく
自分事としてし
っかりと苦労話などを伺ってききました。



子どもたちの学習を支援 ...「まちづくり」ってどんなこと?

未来を生きる子どもたちが、各区とまちづくり協議会
の関係についてや、地域の拠点としての市民センター
の存在について理解が進むことを心より祈っています。



7月1日(月)に
柘植中1年生が、
同3日(水)には
柘植小3年生が、
地域学習の一環で
市民センターを訪
ねて来てくれまし
た。

★☆☆★**事務局だより**☆☆★
▼今年の梅雨時期は日照がとも少なくて稲等の生育
が心配です。▼今号の記事に共通する「学ぶ」とい
う行為は、植物が太陽エネルギーを受け止めて成長
するようなもの。大人も子どもも様々な刺激を受け
て、まちづくりをしていきたいものです。(西田方計)